

—【報告】法政大学 第5回 FDワークショップ  
「高等教育におけるGPAとシラバスの活用」—

10月30日(土)、市ヶ谷キャンパス80年館7階 角会議室にて、FDワークショップ「高等教育におけるGPAとシラバスの活用」を開催しました。本学では2008年度以降に開講した全科目においてGPA(Grade Point Average)制度が導入され、その運用や活用方法についてのヒアリングや検討を進めております。

昨年度の第4回FDフォーラムでは、「GPA制度の活用—大学における成績評価とは」と題して、成績評価の数値化やその評価方法のあり方について活発な議論が展開され、客観的に判断されるべきGPAの方向性に関する多くの貴重なご意見をいただく機会となりました。今回はさらにGPA制度の本格的な活用に向けた継続的な検討を一步前進させるために企画され、多くの皆様のご協力により開催が実現しました。

本ワークショップは、主に学内の教職員を対象とし、GPA制度導入に伴う「成績評価の厳格化」を踏まえ、学生にとって、最も重要な科目選択の判断資料となる「シラバス」の活用やその意義、また、成績評価のための教育プランの提示方法、GPA制度の運営や成績評価のあり方についてを、他大学の先駆的な取り組みに関する基調講演をもとに検討することを主な目的にしています。

総合司会は川上忠重FD推進センター長(理工学部教授)が担当しました。

第1部では、一橋大学の筒井泉雄氏(大学教育開発研究センター長、大学院商学研究科教授)をお招きし、「GPA本格導入後の一橋大学での取り組み」と題した基調講演が行われました。普段はなかなかお聞きできない詳細に至る内容までご説明いただき、基調講演終了後には参加者より多くの質問が寄せられました。

第2部のワークショップでは、藤田哲也FD推進センター施策開発プロジェクトリーダー(文学部教授)をファシリテーターに、「学生の学びを支援するシラバス作り」というテーマでグループワークを実施しました。事前課題を持ちよっての実践に即した新たな取り組みに、教員も職員も一緒になって議論や作業に没頭しました。当日は日本列島を台風が縦断する悪天候だったにも関わらず、関西・東海地方からも、特別参加の大学教職員の皆様が出席されました。これからの本学におけるFD推進において、確かな手ごたえを感じるワークショップとなり、盛況のうちに幕を閉じました。

次回も学内教職員を中心に、これまでのワークショップを継続・発展させた内容で開催を予定しています。